

百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会の 設立趣旨について

旭川は岡山県の政治・経済・文化の中心である岡山市街地を貫流し、岡山城、後樂園といった岡山市のシンボルを形作っている河川であり、放水路として百間川（旭川放水路）を有しています。そもそも、百間川は岡山城下の洪水を防ぐために、津田永忠が設計・施行し貞享3年（1686年）に完成させたものでした。

その後、国土交通省において、堤防の築堤等本格的な改修を昭和49年度に着手し、平成8年度には平成4年に策定した工事実施基本計画での百間川分流量（2,000m³/s）に対応した堤防が砂川を残し完成しました。このように、岡山市中心部の洪水被害の軽減という昔からの目的の他、百間川沿川の洪水被害の軽減を目指して事業を進めてきました。

今後は放水路の本来の目的である、旭川の洪水をより多くより安全に流すための整備が必要となります。そのため、流下能力が計画流量の6割程度しかない河口水門の増築と、分流能力の低い「一の荒手」「二の荒手」を含めた分流部の改築に取りかかります。河口水門については本年度から事業化するとともに、分流部については砂川改修に引き続き取りかかります。

本協議会は、水門増築事業の着手を契機に、百間川河口周辺の自然環境の保全と改善方策、利活用方策及び水門増築事業に関する関係者間の情報の共有化、意見の集約とその対応策の検討のため、学識経験者、地域の方々、漁業関係者、行政関係者および河川管理者（国土交通省岡山河川工事事務所）により設置するものです。